

市長とランチミーティング⑬ 石垣島周辺海域のサンゴ礁を守るには

第16回「市長とランチミーティング」は10月26日(水)に「石垣島マリンレジャー協同組合」の皆さんと行われました。そのミーティング内容を紹介します。

中山市長 こんにちは。八重山の観光の大きな柱でありますダイビング関係、マリン関係のお仕事に携わっていただき心から感謝いたします。あわせてサンゴの海域保全のためにも、いろいろとご尽力いただき感謝申し上げます。これからも皆さんとともに一つの産業として創り上げていきたいと思っています。いろいろとご意見をいただければと思っています、よろしくお願いします。

オニヒトデ駆除の現状

屋良部代表 我々石垣島マリンレジャー協同組合は13業者、全て地元の業者です。5年程前から業者が増えてきました。地元業者が一つになってダイビング業界をちゃんとやっていくというルールとかも含めて平成21年2月に組織を設立しました。1998年にサンゴの大白化が起



こり3年程前にオニヒトデが異常発生しました。そのオニヒトデは今20〜30センチに大きくなつて大量発生する状況で八重山のサンゴは本当に死滅状態です。石西礁湖のサンゴ礁は約95%が死滅状態で、何とか守つて

いこうということでは一生懸命やっているとあります。お陰様で市の事業も4月から9月までに約14万匹のオニヒトデを駆除しました。今年駆除したからいなくなるのかというと、そうではなくて、来年もおそらく同じような状況ではないかと思えます。竹富から西表にかけての北のサンゴは元気なんですけど、御願崎や川平に向かって西のサンゴは、ほとんど死滅状態ですね。今元気なサンゴを守るためにもオニヒトデ駆除を継続してやっていかないといけないというところで、行政を含めて何とか方法を、雇用創出事業を継続できればと思いますので、よろしくお願いします。

中山市長 今年の予算はいくらですか。

吉村企画部長 4800万ぐらいです。雇用対策ですので、出した分、誰か採用しなければなりません。

屋良部代表 今、13名雇用しています。

吉村企画部長 本来は別の角度から予算化しないといけないでしょう。

中山市長 雇用対策ではなく

て、直接の事業として。

吉村企画部長 環境保全、サンゴ保全の立場から環境省や水産の予算、そういったことが一番いいでしょう。

漢那副市長 これだけ大きな海域でこれだけ大きなサンゴ礁で、海域の排他的経済水域の中の自然保護ですから基本的には国と県と市で役割分担する方向に向かないと。大きな観点から国には責務と役割を担ってほしいと思います。

組合員 鳩山総理大臣の時代にサンゴは国で守らないといけないということでは部会ができていたと思います。それがどうなっているか、ですけど。

中山市長 市としても国に対してこの間、要請しましたし、自民党に対しては海域保全の費用は地方交付税の対象にしてくれないかと要請しました。今回、政府が決めた沖縄県の一括交付金の中に入ってくるんであれば、石垣市、竹富町にも該当する金額があると思いますので、予算化されれば、出すことはできます。

吉村企画部長 一括交付金の話で、サンゴ、海域は八重山というところで「地域特性」として県に訴えております。一括交付金の制度になれば、プラスアルファの面で期待しています。

中山市長 駆除したオニヒトデはどこで処理していますか。

組合員 たい肥センターに持ち込んでいます。たい肥がある時

市長とランチミーティング

期はいいのですが、たい肥がなくなったら水分が多いということとで受け入れられないですよ。

吉村企画部長 前に話のあったナイト駆除はどうなったのですか。

組合員 ナイト駆除は今年はやっています。

中山市長 夜の事業については予算がつかないということですね。

組合員 しかし、建設工事では夜の潜水作業もありますよね。なぜ、予算付けできないのか、理解できません。

吉村企画部長 オニヒトデは夜、結構出てくるんですか？

組合員 はい、上に上がって出てきます。特にチーオニヒトデは昼間隠れて、夜出てくるんです。夜の方が効果的です。

組合員 米原ですけど、現状からすると、一つのポイントが手つかずの状態、他はだいぶやられています。一生懸命頑張っています。この事業がなければ、ダブルリーフのサンゴは壊滅的な打撃を受けると思っています。今後もこの事業の継続をお願いします。

知念観光交流推進課長 この環境共生型事業は今年度で終わるんですよ。

組合員 米原キャンプ場は来年あたりビーチに上がりますよ。

吉村企画部長 予算編成の時期で、国の次年度の事業メニューとしてまだ、はっきりしません。環境省も含めて検討します。

ふるさと納税制度を

活用して

組合員 みんなで話した中で、ふるさと納税はどうかという話があります。

中山市長 ふるさと納税制度は市外の方が、例えば、サンゴの保全、オニヒトデの駆除に使ってほしいということ。石垣市に寄附すれば、本人の自治体で確定申告をすると、所得税や住民税の税額控除してもらえます。ふるさと納税制度の自然環境保全の中でサンゴの保全を目的にするということ。費用を充てることは充分可能ですね。

組合員 我々で呼びかけたいと思います。マニユアルか何かないんですか。

吉村企画部長 ありますよ。

組合員 マニユアルを行政側で作ってもらい、各場所に置いた方がいいと思います。

吉村企画部長 皆さんの集まりがある時に我々の方から出前でご案内をさせていただきます。

組合員 宮古ではダイビングの協力金というかたちで500円を取っています。オニヒトデ駆除の予算は県の方で今年は1千万弱、石垣市にありましたけど、来年は環境の面ではないという話を聞いています。環境省も約1千万弱ありますが、それをもいつまで続くかわかりません。ダイビングのお客さんは出

すお金は変わらない、税金として払いますから。東京に払うのか、石垣に払うのかということだけなので。ふるさと納税はい制度だと思えますので、ぜひ進めていきたいと思えます。

サンゴ礁の保全、

サンゴの産卵

組合員 5月の大潮にサンゴの産卵があります。我々はその一週間ぐらい前にリーフのクリーニングをしていきます。金ブラシでリーフをゴシゴシと。というのは、サンゴが産卵して一週間以内に活着します。幼生が着くんです。専門の方に言わせたら、コケとかがかぶりついて、着けない環境になっているらしいです。3年やっています。3年前にしたところが、2、3センチぐらい大きくなっているところ。クリーニングをしたところは、ある程度大きくなりません。

中山市長 サンゴの卵が宮古や沖縄本島の分のもになっていく可能性はあるのですか。

組合員 潮の流れにもよりますが、時間が経ち過ぎると死滅する可能性があります。黒潮にのって久米島や沖縄本島には1、2日で行くと思います。先生達に言わせたらその流れで沖縄本島あたりまで行っているようにです。ただ、石西礁湖で産んだサンゴの産卵は名蔵湾で止まると

いると。名蔵湾が環境的には一番いいんですけど、陸からの赤土などが流れて、昔は海藻が10センチになると冬場の北風で切れて流れてそこにサンゴが着いたんだけど、今は1メートルぐらいになりすぎて、そういう環境ではなくなっています。ただ、最近水が良くなっています。内側までサンゴがきれいになっていきます。

漢那副市長 海藻が1メートルぐらいになるというのは、自然環境が良くなったと理解していいですか。

組合員 海藻のチソとかリンの栄養がついて多くなると海藻が増えていきます。

中山市長 生活排水や農業用の肥料が入っているんでしょうね。

中山市長 今回の話はサンゴの保全、オニヒトデの駆除ということ、この分の予算については県とかと調整しながら何らかの対策を打ちたいと思っています。ふるさと納税の件は先ほど話し合ったように市側で調整して皆さんの店舗に置いてもらえるように、特に説明書がなくても申込みできるような内容で検討して用紙を作成したいと思っています。八重山観光の大きな柱です。これから、海外に向けても魅力ある商品になると思います。ぜひ、力をかしてもらえればと思います。よろしくお願いします。